

陽だまり

vol. 14

2013.12月発行

公益財団法人 丹後中央病院

病院長 西 島 直 城

〒627-8555 京都府京丹後市峰山町杉谷158-1
TEL 0772(62)0791 <http://www.tangohp.com>

平成25年9月、 新棟がオープンしました



— CONTENTS —

- ◆ 病院長ごあいさつ ————— 2
- ◆ 竣工式より ————— 4
- ◆ 〈各部署のご紹介〉 1病棟・2病棟・5病棟・6病棟 — 6～13
7病棟・8病棟・医事部・地域医療連携室／医療福祉相談室
- ◆ 〈おしらせ〉 最新鋭のCTを導入しました ————— 14

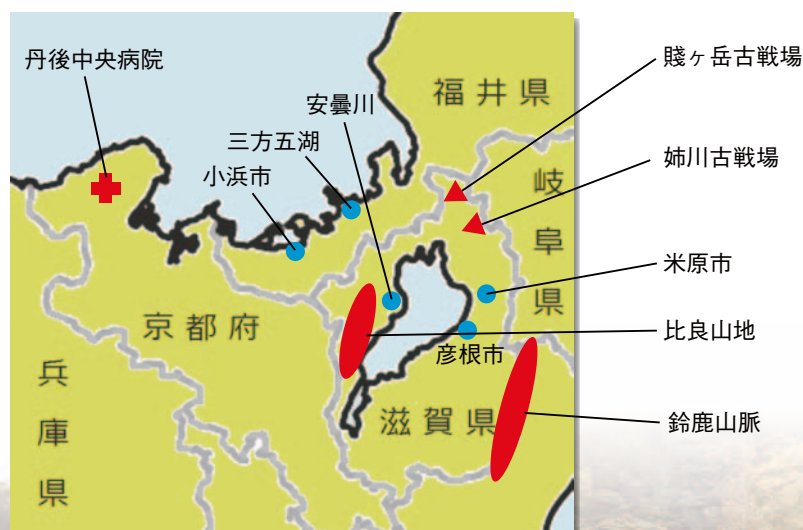
ごあいさつ

病院長 西島直城

滋賀県には大きな湖がある。人工湖とも言われている。滋賀県の面積の2分の1を占めるかと思いきや、実は6分の1にしか過ぎないそうだ。琵琶湖の東側は米原、彦根、水口、甲賀、鈴鹿山脈と、広大な山あり、川あり、平野ありの素晴らしい自然が広がる。当院にはこの辺りからの患者さんも多い。月に4～5人は脊椎の手術を受けられる。股関節や膝の人工関節は長浜市民病院の杉本先生を受診され、頸椎・腰椎は当院に来られるといった傾向がある。

小浜市は、杉田玄白に遡る。立体駐車場が早くから整備されている公立小浜病院の消化器外科は素晴らしい。かつて消化器外科の患者さんは天理の方に流れていたのだが、現在は公立小浜病院を受診される方が多い。滋賀の東の方を湖東といい、湖を挟んで西側、高島、堅田を湖西という。湖西には途中まで高速が走り、比叡山の頂から比良山地が福井県に向かって伸び、有名なスキー場が2か所（びわ湖バレイ、朽木）ある。その山間から安曇川（あどがわ）が湖に注ぐ。この安曇川には琵琶湖の小鮎が無数に育っている。これを網で捕って、全国の河川に放流している。全国の河川の鮎は、もとをただせば琵琶湖産の地鮎が放流されたといっても過言ではない。また、湖北は余呉湖、虎姫と、非常に自然豊かなところでもあり、また賤ヶ岳の合戦、姉川の合戦など古戦場がある。

滋賀県には、湖はあっても海は無い。若狭湾の海側はほとんどが福井県である。三方五湖、レインボーライン周辺からの当院への患者さんも多い。先日、公立小浜病院にて京大関連病院長会議があった。闊達な意見交換がなされ、夜も楽しかった。来年は丹後中央病院が当番幹事となっている。小浜では、杉田玄白との関係や腹部外科の手術症例の素晴らしさを勉強してきた。小浜市とオバマ大統領は直接の関係はないが、小浜音頭という踊りが盛んである。決して過疎地でもなければ僻地でもない。福井も中央集権化は止まっている。

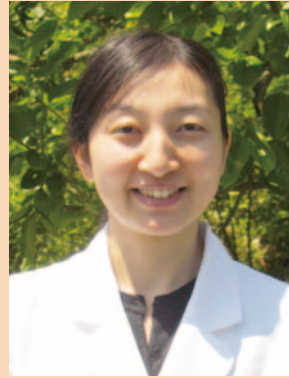




整形外科、西川玲子医師。福島県出身、福島県立医科大学卒業。脊椎外科をかなり研鑽しています。



循環器内科、革嶋恒明医師。弘前大学より京都大学へ進学、京都大学医学博士。



糖尿病内分泌代謝内科、革嶋幸子医師。秋田県出身、弘前大学医学部卒業後、京都大学医学部付属病院内分泌代謝内科勤務。



整形外科、南（旧姓:家村）瑠那（るな）医師。5人きょうだい中4人が京大医…ご曾祖父様が福島のご出身です。

私は、丹後も舞鶴も決して過疎地とか僻地ではないと思う。先日、秋田県や弘前大学出身の医師に赴任していただいた。「すみませんねえ。峰山には時々雪が積もるんですよ。」と謝ったら、「何を言ってるんですか。私たちの故郷では雪が降ったら二階から出るんですよお〜。おじいちゃんは一階でトンネルを掘ってます。」

やはり豪雪地帯の方は辛抱強い。大河ドラマ『八重の桜』をモデルにしたような医師も、福島県から赴任しておられる。お子さんは4人おられ、今度5人目に挑戦されるそう。

県立病院が最も多いのは岩手県である。蔵王のある山形県は、骨折や脊髄損傷が多い。山形大学が大きな力を発揮している。公立置賜総合病院がサテライト方式を採って15年の月日が流れた。自然環境の非常に厳しい所では、医療に租税を投入するのも仕方ないだろう。当地のような地域では、できるだけ自立でやれるよう頑張りたいものである。国民皆保険は元々相互扶助という概念から生まれた。日本では貧しい人と富める人への医療に格差はないと信じている。すべからく、隈（くま）なく格差のない医療を提供するには、規制緩和と民間の力の最大限の利用、税金の無駄遣いの廃止、中央集権化とならないよう配慮することが大切だと思う。民間病院が地域にもたらす経済効果は145%と試算されている。総務省の調べによると、峰山や大宮地域の人口は急上昇している。当院リハビリテーション科のスタッフなどは、東の果てから西の果てまで、さまざまな地方より集まってきている。お蔭で、月に2回の結婚式が行われている。当院を最大のリハビリ病院にしようと頑張っている。

今回は滋賀県からの状況を描いたが、次回は鳥取県〜島根県から当地への状況を説明したい。静岡県の前の知事は言った。「静岡が元気になれば日本が元気になる。」我々は、「嶺南や山陰が元気になれば日本が元気になるんだ。」と絶叫したい。これまでは疾病（医療資源）が流出していたが、現在は公立小浜病院へも当院へも逆輸入されている。山口県からも人間ドックを受検に来られるようになった。

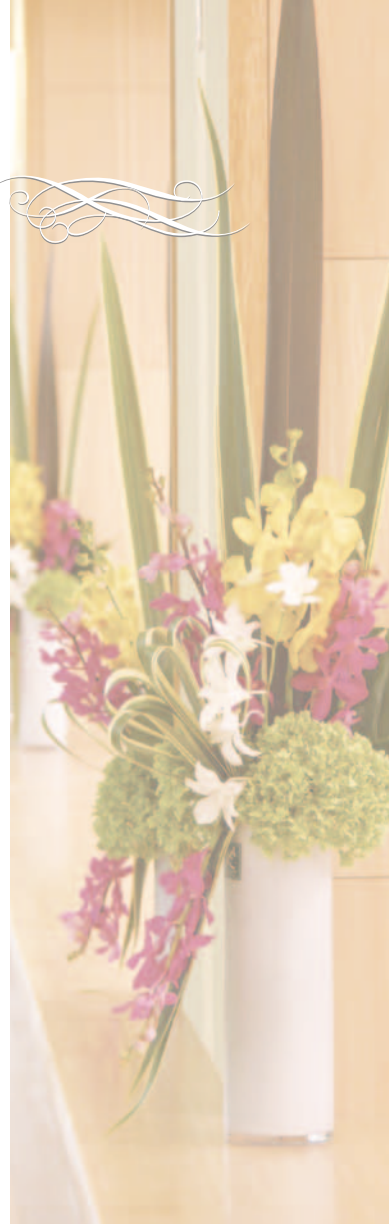
新棟竣工式

平成25年9月7日、新棟（A棟）の竣工式を執り行いました。

当日は新棟見学会も同時開催し、近隣の皆様、患者様をはじめ多数の方々にお越しいただきました。また竣工記念講演では、京都大学医学部附属病院より坂田隆造教授、尾野亘講師をお招きし、それぞれ『心臓外科の散歩道』、『動脈硬化性疾患の現状と今後の治療展望』というテーマで講演いただき、こちらも大変多くのご参加をいただき盛況となりました。

その後の竣工式典では、行政の方々をはじめ多くの来賓の皆様のご列席の中、病院長よりご挨拶申し上げた後、建築工事をお世話になりました業者の方々へ感謝状を贈呈させていただきました。

また、合間には辻阪乙絲子先生によるピアノ演奏や患者様による二胡の演奏、消化器内科・瀧田暁彦医師もピアノを披露させていただきました、最後にはご列席いただきました全員で『ふるさと』を合唱しました。



新棟見学会の様子。
多数のご来場をいただきました。



京都大学医学部附属病院
坂田隆造教授による特別講演



京都大学医学部附属病院
尾野亘講師による特別講演





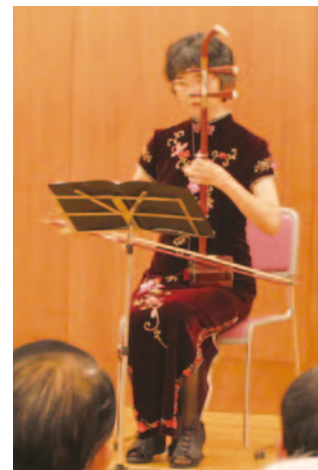
辻阪乙絲子先生による
ピアノ演奏



濱田医師もピアノを
披露させて
いただきました

この新A棟には、1階はエントランスホールをはじめ受付、薬局、地域医療連携室、医療福祉相談室、売店『いちょう』等が、地下1階にはこれまで旧A棟で診察を行っておりました内科系・外科系、産婦人科の各診療科の外来診察室と中央処置室が、そして2・3階には病棟が、それぞれ移転致しました。

これに伴い、診察場所や受付方法、検査場所等が変更となっております。患者様には大変ご迷惑をお掛けすることとなりますが、お困りの際はどうぞご遠慮なくスタッフまでお声掛け下さい。



患者様による二胡の演奏



西島直城病院長からの
ご挨拶



1 階
エントランス
ホール



1 階
受付周辺



1 階
売店、
喫茶コーナー



地下1 階
外来待合



1 病棟看護師長
野村澄子

「〇〇病棟を作るんだ。」と、数年前から言われていました。私の退職までに新棟ができるのだろうかと考えていましたが、こんなにも早く新棟が完成しました。

9月16日のお昼から最終の引越しとなりました。それまでも荷物の片づけをしていたにもかかわらず、こんなにも荷物があつたのかと驚かされました。入院患者さんやご家族のご理解とご協力のもと、事故もなく無事に引越しを終えることができました。

新1病棟は、旧1病棟と同じく外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・その他の科で構成されます。新2病棟の稼働に合わせて10月1日より、これまでの40床から個室9床、4人部屋6室、観察室3床の計36床となりました。皆が動きやすい定位置に収まるまでにそれから1週間くらいを要しました。

まだまだ配置には検討の余地がありますが、やっと人も物も落ち着いてきた今日この頃です。

ハード面が揃っても中身が伴わなければ何にもなりません。新しい病棟に見合った中身になるよう、また地域医療に貢献できるようスタッフ一同頑張りたいと思います。



2 病棟

2病棟は、消化器内科・整形外科の病棟です。看護師18名、看護補助8名、クラーク1名の計27名で10月1日よりスタートしました。他病棟より転棟の患者様の受け入れ、外来からの入院患者様の受け入れとドタバタした初日。いくつかの病棟から集まったスタッフがああでもないこうでもないと言いながら、一つ一つの業務を見直し始めた2日目。そしてあっという間に初めての週末。ようやく落ち着きを見せ始めています…と思ったら、「ICUに読書灯がないで!」「排煙用の窓が開かへんわな～」「手すりがあらへんわな～」「点滴は誰がするの?」等々、様々な問題が勃発。働いてみないとわからないことがたくさんあります。

消化器内科の入退院は非常に回転が速く、患者様の背景を知り、関わる事ができるまでに退院される方もあります。かといってその方が決して軽症な訳ではありません。疾患にもよりますが繰り返し入院される方が殆どです。

整形外科はリハビリや安静目的の患者様が殆どですが、まさに社会の縮図…高齢で独居の方や高齢者世帯の方が殆どで、どうやって地域に帰っていただくか、介護保険サービスへつなげていくか等々の問題を抱えた方も多くおられます。山川医師、濱田医師をはじめ医師の指導を受けながら、また他部署のスタッフとも密に連携を取りながら、一人一人の患者様に満足して、安心して退院いただけるよう、スタッフ一同、力を合わせて頑張ります。

既存の各病棟から集まったメンバーが、それぞれの知識と技術と経験を持ち寄って歩き出した病棟です。それぞれの仕事や看護に対する思いは、まだ様々な方向を向いています。学び合いや話し合いを重ねながら少しずつ一つの方向に向かって行ければ、と思っています。今後も多大なご迷惑とご心配をおかけすることと思いますが、皆様にご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。



2病棟看護師長
日下部恵美子





5病棟

平成22年に現在のB棟が完成し、5病棟が稼働しました。時の流れは早く、もう3年半が経過しました。5病棟の病棟部長は西島院長です。急流下りのようなスリリングな毎日を送っています。時には竜巻も経験できますが、竜巻の目の中に入って飛ばされないようにするのがコツです（笑）。

5病棟は、頸椎、腰、股関節や膝の手術対象の患者様や、リウマチや交通外傷の患者様が主に入院しておられます。最近、整形外科の手術目的で入院してこられる患者様の中に糖尿病や心臓疾患、脳梗塞を合併しておられる方が大変増えています。

西島院長は、糖尿病、心臓疾患、肺疾患などの勉強にも熱心で、これらの治療も行っておりますので、必然的に看護師も整形外科疾患だけでなく内科疾患の勉強もしなければなりません。

一人の患者様に対し、医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師、栄養士、看護補助、医療ソーシャルワーカー、事務と、様々な職種のスタッフがかかわっています。それぞれのスタッフと情報交換・連携を密にし、患者様に安心して治療やリハビリテーションを受けていただけるよう、頑張っていきたいと思います。

5病棟 看護師長 竹村みはる





ある時のエピソードです。ひとりの男性が病棟まで訪ねて来られました。

- 「自分は先程、外来の先生から腰の手術を勧められたが、内視鏡ですと言われた。都会の病院ではそんな手術があることは知っているが、こんな田舎の病院で本当にそんなことをしているのか、正直に教えて欲しい。」
- というお話でした。もう既にたくさんの方がその方法で、順調な経過で早期に退院されていることをお話ししました。

- 数日後、その男性は入院され、その手術を受けられて順調な経過で退院されました。

- 6病棟には、脳卒中、パーキンソン病など、脳神経内科の患者様も入院しておられます。整形外科と同じ病棟であることも功を奏してか、ナースは病状が安定している方にはどんどん起き上がっていただき、車椅子へと移乗していきます。後遺症が残り、なかなか今まで通りには行かないという方もありますが、今私たちにできることを、一生懸命していきたいと思っています。

6病棟 看護師長 坪倉いづみ





7病棟は、主に循環器内科、糖尿病内分泌科、一般内科の病棟です。看護スタッフ20名、看護補助7名、クーク1名、計28名のスタッフで頑張っています。

みんなよく食べ、よく笑い、にぎやかな雰囲気の中、質の高い看護を提供できるよう、日々努力しています。

7病棟 看護師長
谷畑絹代





- 平成18年に回復期リハビリテーションを立ち上げ、来年9年目を迎えます。
- 医師1名、看護師17名、介護職（看護補助者）9名、医療ソーシャルワーカー、そしてセラピストが一つの病棟に集まり、常に笑顔を忘れずにリハビリテーションを実施し、寝たきり防止、日常生活動作の向上、家庭復帰、社会復帰を目指しています。

- 疾患としては、主に整形外科疾患（股関節・膝関節の人工関節）や脳血管疾患の患者様がリハビリテーションを実施しておられます。

- 「自分の家にもう一度帰ろう」という気持ちになっていただき、社会保障制度、地域医療を利用し、在宅の方向で退院ができるよう、医療従事者は頑張っています。

- 担当医、スタッフの協力を得て、平成24年度の在宅復帰率は75.5%でした。また、病床稼働率は98%です。

- 来年は、46床増床で96床となる予定です。今後一層頑張っていきますので、ご指導をよろしくお願い致します。



8 病棟看護師長
山本佳子





医事部は4課で組織されており、正面受付や病棟、外来棟の各ポジションにおいて、院内チームワークを念頭に日々業務をおこなっています。業務内容は多岐にわたりますが、地域の皆様に信頼され、安心して病院にお越しいただけるよう、迅速かつ正確な対応と丁寧な接遇にも重点をおいています。

運営体制

- 受付・会計課……15名
- レセプト請求課…15名
- 診療情報管理課… 5名
- 医療クラーク課…26名

業務内容

- 受付・会計課……外来受付、入院受付、外来診療費計算、その他受付業務
- レセプト請求課…入院診療費計算、労災及び自賠責診療費計算、
その他診療報酬請求に関する業務全般
- 診療情報管理課…病院統計、医業収入計算、その他診療情報に関する業務
- 医療クラーク課…医師の事務作業補助業務

「親切で、信頼され、喜ばれる」接遇対応に心がけ、すべての皆さまが満足してお帰りいただけますよう日々努力しています。“惻隱の情”を忘れることなく、真心を込めた思いやる行動を提供し、今後も患者さまに寄り添った、皆さまから選ばれる病院になれるよう努力していきます。



受付方法のご案内

〈初診の方〉



「1 初診・入院」窓口へお越し下さい。診察券をお作りし、受付させていただきます



または

新棟以外の
外来診察室
受付

〈診察券をお持ちの方、再診の方〉



正面玄関から右手にお入りいただき、自動受付機にて受付をお済ませ下さい。



「2再診」窓口にて月に1度保険証をご提示下さい。

新棟での外来を受診される方は地下1階の「案内」コーナーに、新棟以外の外来を受診される方は各外来の受付に「受付票」をお持ちいただき、待合にてお待ち下さい。



◆ 地域医療連携室 ◆

地域医療連携室には医師1名と事務2名が所属し、当院の持つ高度で幅広い医療を地域の方々に提供するための橋渡し部門として、地域の開業医・病院・福祉施設との窓口となり、ご紹介いただいた患者様が円滑に診察していただけるよう日々努力しております。



室長 田中 寛
(副院長 / 耳鼻咽喉科)

取扱業務

① 紹介患者様の受付

地域の医療機関様から当院への紹介患者様の受付をしております。予約枠での診察となりますので、他の患者さまより待ち時間が少なくなります。

② 検査予約の受付

予約枠で対応させていただきますので、少ない待ち時間で検査を受けていただくことができます。後日、検査結果とともにご紹介元の医療機関を受診していただくことになります。

● 受付時間

平日 8:30 ~ 17:00 第2・第4土曜日 8:30 ~ 12:00

● お問い合わせ(地域医療連携室直通)

T E L 0772-62-7730

F A X 0772-62-2852

● 場所 新A棟1階、受付の隣にあります

◆ 医療福祉相談室 ◆

医療福祉相談室には3人のソーシャルワーカーが所属し、病気や障害を契機とする様々な生活上の問題を解決する援助を行います。病気のため働くことが困難になり、経済的な問題が生じるようになった、病気の後遺症により介護が必要となった、往診を受けたいけれどどうしたらいいの?等、医療に伴う社会的・心理的な問題に対応させていただくことで、安心して治療・療養に専念していただきたいと考えております。



相談事例

- 障害者総合支援法、介護保険法などの社会保障全般のご相談
- 医療費の支払い、生活費の不安などの経済的問題
- 転院紹介・施設探し
- 地域の医療機関・福祉機関の利用方法 等

生活上の問題に対応するに当たり、患者様およびご家族様と十分ご相談させていただき、共に解決策を見出し、必要に応じて各医療機関や福祉機関と連携・調整を図ります。ご相談は担当医師および看護師、もしくは正面受付にてお声かけください。なお、ご相談いただきました内容は個人情報保護法に基づき厳重に保管させていただきます。また、相談料はかかりませんので、当院での治療に伴って気になること、不安なことなど、お気軽にご相談ください。



最新鋭のCT (320列CT Aquilion One) を導入しました

TOSHIBA
Aquilion ONE
VISION EDITION



最新鋭320列CT装置では、従来のCTよりも被ばく量が低減されているだけでなく検査時間の大幅短縮や低侵襲で精度の高い冠動脈疾患の診断が可能となりました。

今回導入された320列CTは、すでに導入されている64列CTの5倍のサイズの検出器が搭載されています。そのため撮影範囲が広く、1回で1臓器（脳・心臓・肝臓など）の撮影が終了するため、非常に撮影時間が早く、動きのある患者様の撮影に有効です。

検出器サイズ



【64列CT 32mm】

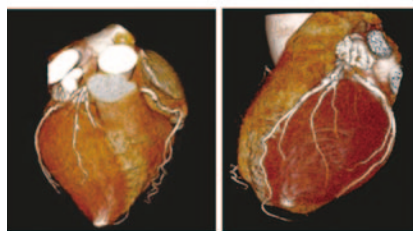


【320列CT 160mm】

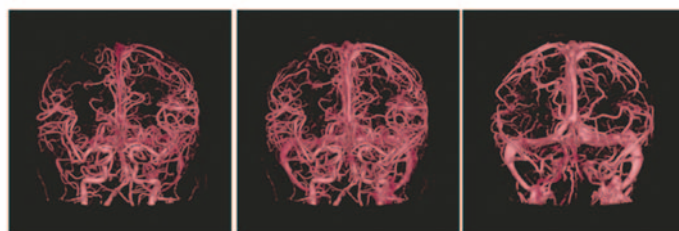
また造影検査では、同じ時刻に一度で撮影するため、造影材料を少なくすることもできます。

患者様のご期待にお応えするため、最新医療機器を導入し、質の高い医療サービスを提供して参ります。

【心臓・大動脈】



【冠動脈】



【脳血管】

編集後記

英語のhospital(病院)の語源は、元々ラテン語のhospes(客人)に由来し、その後時代を経て、hospitality(親切におもてなしすること)からhotel(ホテル)やhospital等の派生語が生まれたようです。医療機関に従事する者としての基本をもう一度考えさせられます。

今号でご紹介させていただきましたように、受付・薬局・外来診察室と病棟の一部が入る新棟がオープン致しました。ただ単に新しい建物ができたというだけでなく、来院される方々にとって、受付・ご案内・ご相談等、医療の面だけに限らずトータルでご満足いただけるような施設でありたいと願っております。

人と人とのコミュニケーションによって成り立つ医療現場であることを再認識し、これまで以上に地域医療に貢献させていただくべく、職員一同、一丸となって精進して参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

秘書広報課 田宮 宏亮